

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

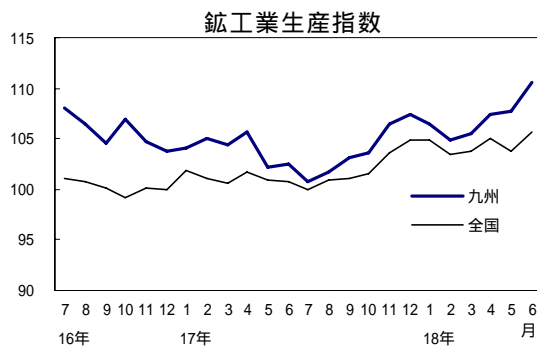
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 5 月）	今回（平成 18 年 8 月）	
鉱工業生産	ゆるやかに増加	増加	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、車載向けや薄型テレビ向けの高付加価値 L S I、デジタルカメラ向けの C C D、音楽プレイヤーやゲーム機向けの I C 等が好調なことから、引き続き増加している。輸送機械は、自動車は、アメリカ、アジア、ヨーロッパ向けの輸出は好調なもの、国内向け完成車の一部が車種構成の変更途上にあることから全体では減少している。一般機械は、半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置が、国内外でのおう盛な需要を背景に増加している。食料品・たばこは、清涼飲料やビールなどの動きが好調なことに加え、増税前の駆け込み需要からたばこが伸びたことから増加している。化学は、カプロラクタムやポリプロピレンといった汎用プラスチック樹脂は好調であったが、大規模定期修理の影響から全体では減少している。



- (備考) 1. 12年 = 100、季節調整値。
2. 平成 18 年 6 月の九州は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

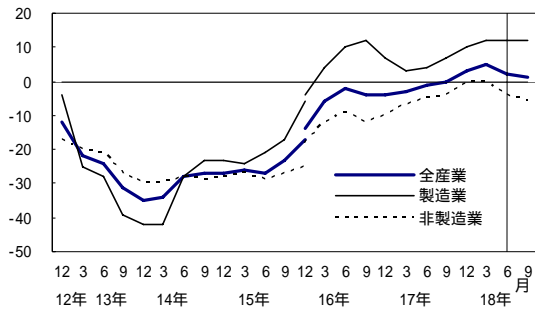
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
電子部品・デバイス	14.9	6.8	1.7	2.8	25.9
輸送機械	11.7	2.2	1.0	0.3	14.5
一般機械	11.0	3.3	5.3	2.6	2.4
食料品・たばこ	10.8	2.5	3.8	3.8	4.0
化学	8.5	0.1	4.4	0.5	5.9
鉱工業	100.0	0.2	2.8	4.0	0.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2. 4～6 月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

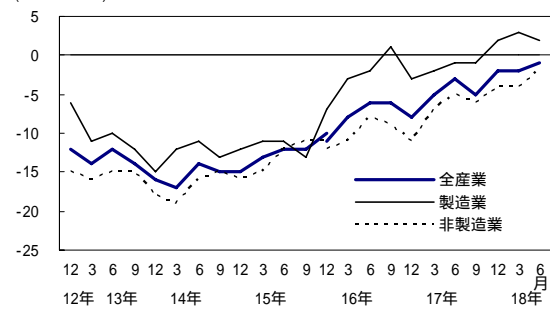
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



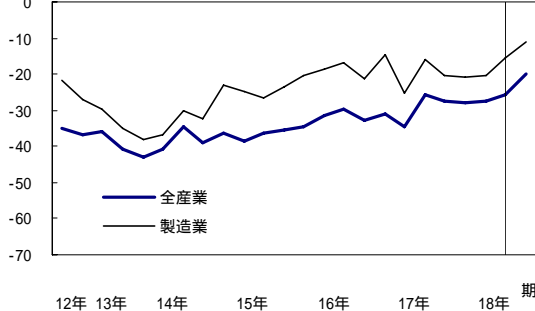
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「ゼロ金利解除により銀行の預金金利、住宅ローンや事業資金の貸出金利が上昇傾向にある。一方、原油高騰によるガソリン価格の上昇や、長雨による野菜の高騰で家計負担が大きくなってきている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

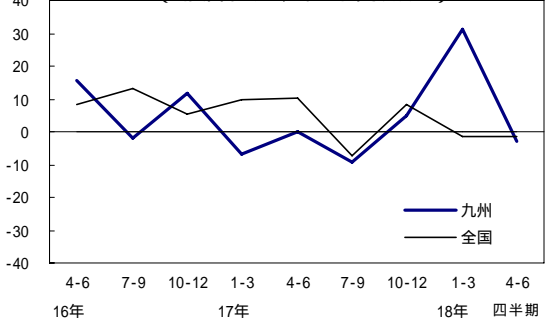
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	6.1(0.1)	4.2(1.0)
製造業	17.1(0.5)	14.2(0.4)
非製造業	0.8(2.1)	3.2(1.3)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(%) 建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

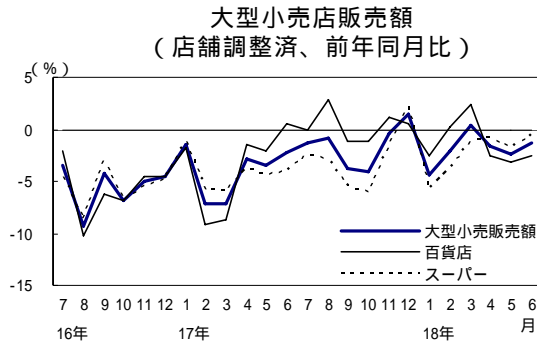
百貨店は、4月は、高級ブランドバックやアクセサリーなど身の回り品に動きがみられたものの、気温が低めに推移したことから主力の婦人衣料の動きが鈍く、全体的には前年を下回った。5月は、天候不順の影響から夏物衣料の動きが鈍く、また飲食料品は、精肉や和洋菓子などで一部動きがみられたもの、前年には及ばず、全体としては前年を下回った。6月は、中元ギフトの早期受注等から飲食料品は前年を上回ったが、気温が低めに推移したことや雨が多かったことなどから客足が伸びず、夏物を中心に衣料品が不調だったことから、全体では前年を下回った。九州百貨店協会によると、九州地区の7月の売上高は、前年同月比で2.4%減となっている。

スーパーでは、主力の野菜、精肉、総菜といった飲食料品の動きが良く、天候不順の影響から夏物を中心に衣料品は振るわなかったものの、前年比でのマイナス幅は縮小している。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「大雨の影響で、クリアランス、中元商戦での来客数が大幅に低下した。しかし購買目的での客が多く、客単価は前年を上回り、中元ギフトは前年実績を確保した。正価販売品も堅調であった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同月比、%)

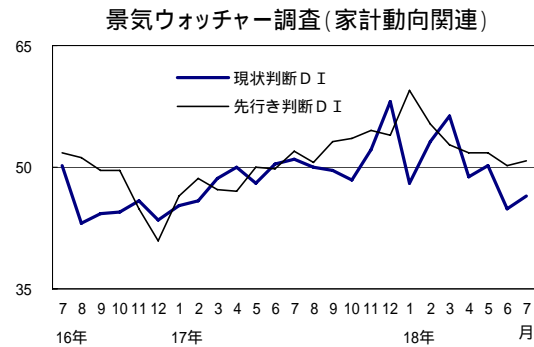
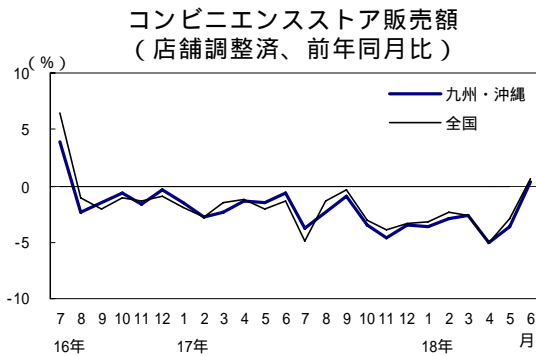


	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	1.9	0.7	2.1	1.8
百貨店	0.4	0.2	0.0	2.7
スーパー	3.5	1.5	3.7	1.2
コンビニ	2.4	3.9	3.1	2.8
景気ウォッチャー	50.2	52.9	52.5	48.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

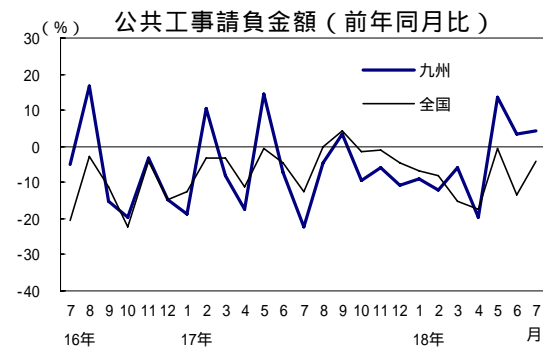
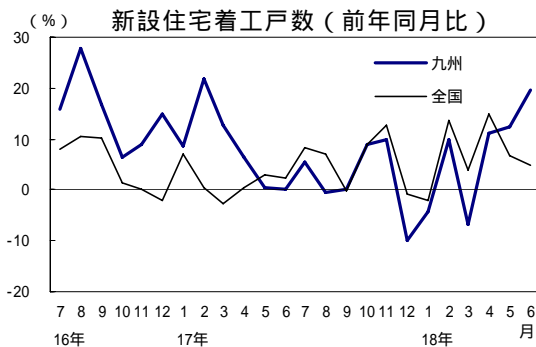
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲、持家が前年を上回ったことから全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

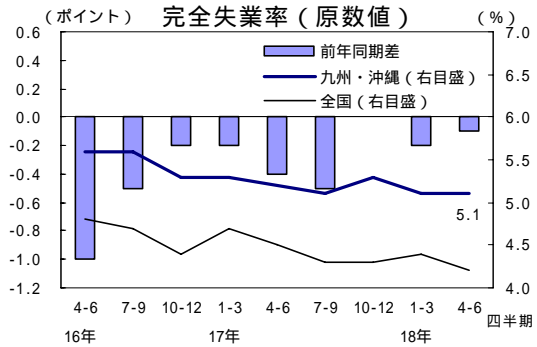
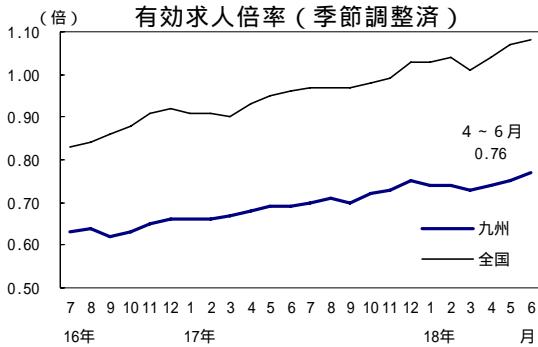


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

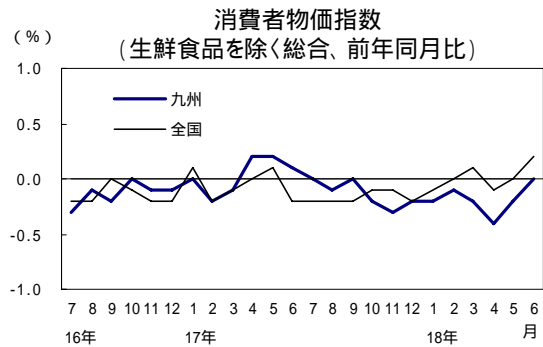
「雇用件数はやや増加傾向にあるが、正規職員の比率が減少しつつある。雇用の分母は増加しているかもしれないが、安定性や定着率は良好とは言い難い(学校[専門学校])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	270	237	259	286	92
(前年比)	4.6	20.7	5.8	9.2	22.7
負債総額	1148	825	1259	1020	191
(前年比)	25.4	21.4	44.3	44.7	8.4



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の高機能・高価格商品がよく売れている。多少高くても良い物を買うという傾向が強くなりつつある(家電量販店)

<先行き>

・半導体関連並びに電子部品等は今の状態が秋口まで続く。大手企業は非常に短納期での要求が増えており、現状としてはフル操業の状況が続いている(電気機械器具製造業)

景気ウォッチャー調査(合計)

